# 人権のつぼ 104

大山町人権交流センター TEL 0859－54－2286
大山町茶畑1077－3 FAX 0859－54－2413

## 現地からの学び

今回は、大山町同推協の「釜ヶ崎あいりん地区フィールドワーク」に参加された方の報告を紹介します。

大阪釜ヶ崎あいりん地区へホームレスの方々への炊き出し支援とフィールドワークを目的に、同推協の会員17人と出かけた。

何の不安もなく、バスは大きな道路から角を曲がって待ち合わせの三角公園へ。

自転車の多さ、道の両側に座る人、バスに対して怒っている人…。感じたことのない雰囲気に一気に不安になった。公園に降りる勇気もなく、少し先にバスをゆっくりすすめていただいた。そこはちょうど大阪府西成警察署の前だった。そこで酔っ払ったおじさんが、乗っているバスの運転手に怒鳴ってきた。おじさんは警察署に入り、私服の警察官を連れてきた。私たちは、警察官が来てくれたことにほっとしながらバスを降りて、警察署の一角で待たせていただいた。待っている間、警察官は「話しかけられても相手にしないでください。トラブルに巻き込まれたら大変ですから」とアドバイスしてくださった。

いつの間にか来ていたフィールドワークの案内人の生田さんに連れられ三角公園へ移動する。不安や怖さを抱えながら、警察官に言われたことを信じて周りを見ないようにしていた…。

炊き出しまで時間があったので、生田さんが少しお話をしてくださった。「警察官が言ったことは、差別です」ショックを受けた。私はその言葉を聞くまでそんなことは全く考えてもみなかった。警察官の言った通りにしなければと信じていた。そして私のとった行動は、差別そのものだったと気づかされた。

考えれば、酔っぱらったおじさんも決して間違ったことを言っているわけではない。バスで乗り付けた私たちを「見世物ではない」と不審に思っただろうし、危ないからもっと路肩にバスを止めるようにと教えてくださったのだろう。

雨が降ったので、炊き出しの代わりにおにぎりを配らせていただいたが、いつの間にかそれまでの気持ちは全く消えていた。配り終えて公園から移動する際は、「大阪楽しんでや～」「鳥取からご苦労さん」などと声をかけていただき、笑顔で返事も返せた。そして、おじさんたちが自分の身の上を話してくださり、その会話を楽しめた自分がいた。

改めて、講演や本だけではわからない、現地に学ぶことの意味を感じることができた。そして、関係性の中で差別が作られたり理解が図られたりすることは、どんな人権課題にも共通していることなのだと、身をもって体験した。

大山町同推協では、年3回フィールドワークを行っています。みなさんの参加をお待ちしています。

人権・同和問題講演会の開催について

## 現代の人権問題－連続大量差別はがき事件から学ぶ

**3月6日（木）19：00～**
**保健福祉センターなわ**

**講師：浦本誉至史（よしふみ）さん**

＜内容＞

講師は、2003年～2005年にかけて東京で起きた「連続・大量差別はがき事件」の被害者のひとりでもある浦本誉至史さん。本町で昨年3月に起きた「差別はがき投函事件」について、ご自身の体験・経験をもとにご講演いただきます。

①小学校入学までを対象に託児を設置します。希望される場合は、開催日の4日前までにお子さんのお名前・年齢を添えて、人権推進課に申込んでください。

お問い合わせ先　大山町人権推進課（人権交流センター内）
TEL 0859－54－2286 ／ FAX 0859－54－2413